

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ミライ・シア

② 施設・事業所情報

名称：アスク大船保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：岡崎 英子	定員（利用人数）： 60名
所在地：神奈川県横浜市栄区笠間3-1-4	
TEL：045-897-6765	ホームページ： https://www.nihonhoiku.co.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2013年4月	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社日本保育サービス	
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員 7名
専門職員	栄養士 1名 看護師 1名
施設・設備の概要	保育室6室 沐浴室2室 調理室1室 事務室1室 トイレ3室 職員休憩室1室

③理念・基本方針

- 1) 安全&安心を第一に保育・育成を実施します
- 2) いつまでも思い出に残る施設となるよう日々の保育を大切にします
- 3) 職員が楽しく働けることで子どもたちを笑顔にします
- 4) 地域とつながり支え合う施設として社会に貢献します
- 5) 常に時代が求める子育て支援を実践し続けます

④施設・事業所の特徴的な取組

アスク大船保育園は、担任だけではなく全職員で子どもたちに関わることで、一人ひとりを理解して保育をするアットホームな保育園です。地域の方々にも支えられています。子どもたちの心に寄り添い、笑顔のあふれる園づくりを目指しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年8月1日（契約日） ～ 2023年3月30日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	6回（2018年度）

⑥総評

◇特長

- 1, 戸外活動では自然と触れ合い、異年齢との交流を図っています
園では自然との触れ合いや異年齢との交流に力を入れており、毎日園庭等で積極的に戸外活動を行っています。園周辺の公園に散歩に行ったり、公園では遊具で遊んだり、自然に触れ合うことで季節の変化を感じています。その際には年齢に関係なく合同保育を行うこともあり、年少者への思いやりや年長者への憧れ等お互いに刺激を受けています。また、園の廊下には子どもが作成した「お散歩マップ」が掲示してあります。そのマップには子ども目線で描かれた絵や各公園の特徴が記載されています。
- 2, 食への興味関心を育むため、栽培、制作活動、クッキングを行っています
楽しみながら、食への興味関心を育むため、野菜栽培や制作活動、クッキングを行っ

ています。今年度は園庭にサツマイモの苗を植え、水やり、収穫を行っています。園では収穫したサツマイモをテーマにして、クラスごとに制作活動を行い、画用紙に絵等でサツマイモを表現しています。4,5歳児のクラスでは育てたサツマイモを使ってスイートポテトをクッキングしています。保育においては「自然との関わり」「豊かな感性と表現」という目的が設定されており、園としては食育を通して活動できています。

3, コロナ禍での保育継続に向け本部との連携・会議での議論を重ね対応しています子ども達が安心・安全に過ごせるように園内の消毒や換気には気を付けて行っています。送迎時の保護者に対する協力も行い、人数制限や検温、消毒の徹底を図っています。給食の際の黙食や机の間隔を空けたり、午睡時のスペース確保も徹底して行っています。このように協力して頂きながら保育の継続に向けて法人本部との連携、職員会議での検討を重ね対応しています。一方で行事等は可能な限りやる方向で検討し、中止になったものもありますが、規模やプログラム内容を工夫し実施に結び付けています。また地域との関係も実施しており、子育て支援として保育室の開放や絵本の貸し出しなどを行っています。

◇今後期待される点

1, 組織階層に合わせた会議体系を整理し、意思決定の仕組みを構築することが待たれます

当園の特徴の一つに職員会議で議論を重ねて物事を進めていくという点があります。普段も園長・主任層から話をしたりして取り組みにずれが無いようにしています。議論する際は、前回の振り返りであったり、保護者関係者からのアンケート集計であったりなどの情報を整理してから議論しています。会議は園長・主任を中心に全員で議論しています。一方、乳幼児ごとであったりと階層別の小グループでの話し合いを取り入れ議論しています。しかし、園長・主任層の課題認識として、まだまだ議論が深められていないと感じているようです。決済等承認が必要なものなどを切り分けたり、参加する会議を絞り深い議論したりするためにも、今回の評価を機に意思決定の流れを確認するのも良いでしょう。

2, 地域への活動を積極的に行うための整備が望まれます

当園は、コロナ禍であっても地域支援活動を再開したり、子ども達に多様な資源との関わりの機会として地域を捉えたり等、地域への活動は積極的に行っています。管理者の構想としても、地域と連携していくことを描いています。そのために保育や食の専門性を磨いたり、法人が持つ専門チームの活用などを準備しています。多様な主体との関わりを行っていくためにも、ボランティアの受け入れの方針明示であるとか、関係機関とのやり取りの際の先方の属性把握などを整備しておくことが望まれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受診するにあたり、内容評価については職員全員で自己評価を行いました。項目を通して保育の再確認また振り返りをし、保育の質向上につなげることができました。共通評価をしていく上では、組織としての在り方や管理者としての役割等を見直す良い機会となりました。

保護者の皆様にも、お忙しい中、アンケートにご協力をいただきましたこと、お礼申し上げます。いただいたご意見から改善点も明確になり、今現在、改善をはかっている現状です。また、今までの保育方針の成果を感じることもできました。

子どもたちがえがおで過ごせる園、そして保護者の皆様が安心してお子さんを預けら

れ、一緒に成長を喜び見守っていけるよう、今後も職員と共に力を合わせて保育を行っていきます。

評価機関の皆様には寄り添っていただき、また、気づきの機会をあたえていただきました。ありがとうございました。

アスク大船保育園
園長 岡崎英子

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり